

■**畠山義就** **武将**。**畠山持国の妾腹に生れ、嫡男政長と家督争い、〈応仁の乱〉の端緒を開くなど、戦乱に明け暮れた。**

はたけやまよしなり
・・・・・・1437＝

子がなく異母弟持富を養子としていた_管領**畠山持国**の妾腹に生れ、將軍**足利義政**から片諱をもらって、**義夏**と名づけられる。

嘉吉の乱・・・1441＝ 4歳：

以後、父から寵愛されて育ち、

そののち義就と改名し、伊予守に任じられ、

・・・・・・1446＝ **9歳**：

・・・・・・1448＝11歳：_父**持国**が**家督**を継がせようとしたため、**畠山氏**が二派に分裂、

古河公方始・1454＝17歳：持国が持富の子弥三郎(政長の兄)を襲撃しようとして、細川勝元の支援で逆襲され、父は隠居し、自らは伊賀に逃亡、將軍義政を頼って上洛し、弥三郎派の一掃に成功し、

古河公方始・1455＝**18歳**：***父が死去すると、正式に家督を相続して、知行を安堵されるが、**

寛正大飢饉始1459＝22歳：弥三郎が死去すると、政長が立ち上がり、

・・・・・・1460＝23歳：***細川勝元らの謀略で、將軍義政から追われ、家督が政長に移されたため、河内国若江城に抛り遊佐国助らとともに政長に対抗し転戦するが、政長および細川・山名・武田の諸軍に攻められ、**

・・・・・・1463＝26歳：ついに高野山に入る。のち山下の粉河で政長と戦うが敗れ、吉野の奥北山に入る。

・・・・・・1464＝**27歳**：

・・・・・・1466＝29歳：河内に攻勢を仕掛けて形勢を逆転すると、義就の剛勇を愛した山名宗全が義政夫人日野富子に掛け合って赦され、宗全の迎えを受けて入京、義政に謁する。

応仁の乱始・1467＝30歳：***義政が恒例に反して管領政長の邸宅に臨まなかったのも、それを喜び挙兵。細川勝元はその宗全・義就の横暴を憎み、諸国に兵を求め、応仁の乱に突入する。**

・・・・・・1472＝35歳：京都を発し山崎を経て河内に入って転戦し、一時は河内を制圧。

足利義政隠居1473＝**36歳**：

以後も、泥沼の戦いを続けるうち、

応仁の乱終・1477＝40歳：_厭戦ムードが高まって、休戦状態となるが、，

義政政権放棄1482＝**45歳**：

山城国一揆・1485＝48歳：山城国一揆が起こって、両軍とも山城国から撤退した後、

足利義政没・1490＝53歳：

大内義興入京1491＝**54歳**：_没した。